

平成 29 年 1 月 吉日

都道府県病院薬剤師会
会長 殿

平成 28 年度日本医薬品情報学会 課題研究班

代表 橋本 貴尚

(公財) 仙台市医療センター仙台オープン病院 薬剤部
兼任: (一社) 日本病院薬剤師会 医薬情報委員会・委員

平成 28 年度日本医薬品情報学会課題研究班 研修会のご紹介

拝啓

新春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 28 年度日本医薬品情報学会課題研究班では、平成 29 年 2 月 4 日(土)に研修会の開催を予定しております。プログラムにあります通り、宮城県内の様々な職域の薬剤師が集い、それぞれの考えや医薬品情報のあり方などについて講演頂く内容となっております。

本研修会は、参考となる薬剤師の業務並びに研究のあり方の一つを提示できるものと考えております。

つきまして、遠路にて大変恐縮ではございますが、より多くの薬剤師の先生方にご参加頂きたく、紹介申し上げます。

敬具

記

全体テーマ: 患者さんにとっての安全・安心・最高の薬物治療のための医薬品情報を考える

日 時: 平成 29 年 2 月 4 日(土) 14:00～16:00

会 場: せんだいメディアテーク 7 階 スタジオシアター (180 席)

(〒980-0821 仙台市青葉区春日町 2-1)

以上

* 要旨集の作成を予定しておりますので、そちらをご希望される場合は、研修会終了後に発送致します。

患者さんにとっての安全・安心・最高の薬物治療のための医薬品情報を考える

日時：平成 29 年 2 月 4 日（土） 14：00～16：00（開場：13：30）

会場：せんだいメディアテーク 7 階 スタジオシアター（仙台市青葉区春日町 2-1）

プログラム

- 14：00～14：25 「～提案～ 近未来の医薬品情報の一つのカタチ」
「医薬品情報の認識に関するアンケート調査 結果報告」
橋本 貞尚（研究班代表 仙台オープン病院薬剤部 日本病院薬剤師会医薬情報委員会・委員）
- 14：25～15：25 取り組み事例の報告（各 10～12 分）
「健康食品の情報に関する取り組みについて～健康食品情報にだまされないために～」
戸田 紘子 先生（NPO 法人 ふあるま・ねっと・みやぎ）
「小さな DI から大きな効果」
佐藤 昌博 先生（塩竈市立病院 薬剤部）
「薬局で行う腎機能評価」
渡邊 愛 先生（つばさ薬局 多賀城店）
「抗凝固薬適正使用のための情報共有」
新沼 佑美（研究班メンバー 広南病院 薬剤部）
「がん専門病院での医薬品情報業務の取り組み」
江刺 晶央 先生（宮城県立がんセンター 薬剤部／治験・臨床研究管理室）
「仙台市薬剤師会の『ハートヘルス プラザ』について」
藤田 尚宏 先生（株式会社オオノ ひかり薬局 福室）
- 15：25～15：40 「今後のビジョンについて」
菊池 大輔（研究班副代表 東北医科薬科大学病院 薬剤部）
- 15：40～ 来場者を対象にアンケート調査

（＊発表順は変更になることがあります。）

参加費： 無料

共催： 宮城県病院薬剤師会

後援： 一般社団法人 日本病院薬剤師会 一般社団法人 日本医薬品情報学会 一般社団法人 宮城県薬剤師会
一般社団法人 仙台市薬剤師会

研修認定： 日病薬病院薬学認定（申請中） 日本薬剤師研修センター（申請中）

問い合わせ先： 仙台市宮城野区鶴ヶ谷 5 丁目 22-1 仙台オープン病院薬剤部内 橋本貞尚宛

電話：022-252-1111（内線 8887） FAX：022-252-0454

本研修会の趣旨 ～ 近未来の医薬品情報の一つのカタチ ～

薬剤師に課せられた最も重要な役割は、医薬品など（ここでは健康食品も含みます）の情報を検証して活用し、患者さんの薬物治療に貢献することにあります。これまで様々な職域の薬剤師の話を聞いてきて、それぞれが「薬剤師にはもっとできることがあるはずだ」と高い志をお持ちでした。一方で、職域が異なると同じ薬剤師でも考え方や進め方が異なっている、という印象を持ちました。

しかしながら、患者さんから見れば、薬剤師はどこで働いていようとも「ただ一つの薬剤師」です。例えば、入院中に受けた病院薬剤師の話と、退院後に受けた薬局薬剤師の話が異なるようなことがあれば、困るのは患者さんです。健康食品の情報が不十分であれば、服用薬との相互作用等が心配されます。

そこで、「色んな考え方をもち薬剤師が集まって情報共有してみよう」というのが本研修会の趣旨です。本研修会に気軽にご参加頂き、最後のアンケートに感じたこと・考えたことなどをご記入下さい。演者と参加者の双方から得た知見が、今後の薬剤師の情報活用、そして情報共有のあり方に必要不可欠な示唆を与えてくれると思います。それが「近未来の医薬品情報の一つのカタチ」につながるのです。

最後に、宮城県病院薬剤師会（県病薬）並びに仙台市薬剤師会（市薬）からは「医薬品情報の認識と活用に関するアンケート調査」のご協力を頂きました。又、県病薬、市薬並びに宮城県薬剤師会の各会員施設からは事例紹介をして頂きます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成 28 年度日本医薬品情報学会課題研究班 代表 橋本 貞尚

平成 28 年度日本医薬品情報学会課題研究班 主催研修会
～患者さんにとっての安全・安心・最高の薬物治療のための医薬品情報を考える～

ご案内

この度、多くの先生方のご尽力により本研修会を開催でき、ここにご案内できますことを大変嬉しく思うと同時に、心より御礼申し上げる次第です。

本課題研究班の意図

課題研究班とは、(一社)日本医薬品情報学会が指定する 1 年間(延長時は 2 年間)の企画研究です。我々は、以下の 2 つのテーマを定め、今年度 1 年間活動を行って参りました。

テーマ①：医薬品情報(業務)の標準化

当初、我々は、標準的な医薬品情報業務の策定を視野に入れておりました。しかしながら、今では、地域医療の視点、つまり「病院での急性期治療や地域医療機関での慢性期治療、終末期、そして看取り」の中のそれぞれの場面において、薬剤師に課せられた重要な役割があることが分かってきました。「標準化」とは、「医薬品情報を取り扱う専門家として薬剤師全体が一丸となり、患者さんにとっての安全・安心・最高の薬物治療を実践するために切れ目のない支援体制の確立に向けた情報共有」にあると考えております。

上記の支援体制の確立に向けた第一歩として、本研修会のプログラムを組ませて頂いた次第です。

テーマ②：薬剤師全体のベースアップ

「薬剤師にはもっとできることがあるはずだ」と高い志をもつ薬剤師はたくさんいらっしゃいます。しかしながら、日常業務が多忙で自己研鑽がうまくできていない場合や、何かやりたくても進め方がよく分からない場合があるかと思えます。また、取り組んでいらっしゃる場合でも、「人によって考え方や進め方に違いがある」ということが分かってきました。そこで、上記のテーマ①を進めていく中でお互いに高め合い、薬剤師の業務の質向上を図りていきたいと考えております。

もう一つ、これは課題研究班終了後も見据えた中・長期的な展望になります。薬剤師業務が高度化する昨今、薬剤師による研究や学会発表、論文執筆などの必要性はますます高まっております。これらは、自身が行ってきた業務・研究のアウトカムを評価し、次の業務に向けフィードバックを行うための PDCA サイクルの重要な一部分です。しかしながら、多くの薬剤師にとってはいずれも難関です。我々研究班メンバーは、臨床薬剤学や先進的薬学教育、副作用、医薬品情報、臨床研究・治験、医薬統計、そして薬剤疫学の各領域を専門に持ち、学会発表や論文執筆、研修会・勉強会などを精力的に実施するなど、豊富な経験を有しております。情報共有体制の確立と同時進行で、各薬剤師が求めるニーズに対し、我々ができる支援を「気軽に」受けられる体制作りを行って参りたいと考えております。

本研究班そのものは平成 29 年 3 月末日(延長が認められた場合は平成 30 年 3 月末日)で終了しますが、我々の思いは何らかの形で次に引き継いで参りたいと考えております。

(裏に続く)

本研修会の意図

本研修会は我々研究班メンバーが独自に開催するもので、製薬企業の協賛などは受けておりません。演者の選定に関しまして、実際に我々が各種学会や研修会で発表する様子を見、そして直接お話をするなどを通じ、「この人なら、あるいはこの組織が推薦する人なら間違いない」という視点で選ばせて頂いております。利益相反は全く存在せず、自由な雰囲気の下、演者の先生方がそれぞれ「思いの丈（たけ）」をぶつけてくださるものと思っております。

「医薬品情報の認識に関するアンケート調査 結果報告」では、宮城県病院薬剤師会会員施設対象のアンケート調査と、（一社）仙台市薬剤師会会員施設対象のアンケート調査を統合して検証した結果を報告させていただきます。前者は主として病院、後者は主として薬局が対象になるかと思えます。両者の考え方の共通点や差違を見出し、求めるニーズの探索を行って参りたい考えです。

演者だけでなく参加者の存在も重要です。最後のアンケートでは、参加者が感じたこと・考えたことなどを自由にご記入頂きます。「こうするとより良くなる」という建設的助言でも構いません。演者と参加者の双方から得た知見が、今後の薬剤師の情報活用、そして情報共有のあり方に必要不可欠な示唆を与えてくれると思います。それが「近未来の医薬品情報の一つのカタチ」に繋がります。

最後に、我々も含めた薬剤師に、「夢」と「希望」を与えられる仕事がしたいと考えております。そのためにも、より多くの先生方のご尽力が必要不可欠です。ご多忙の折大変恐縮ではございますが、研修会へのお越しを心よりお待ち申し上げます。

平成 28 年度 日本医薬品情報学会 課題研究班 一同

研究班メンバー

氏名	所属	兼任
研究代表者 橋本 貴尚	(公財)仙台市医療センター 仙台オープン病院薬剤部	日本病院薬剤師会 医薬情報委員会・委員
副代表 菊池 大輔	東北医科薬科大学病院薬剤部	
渡辺 善照	東北医科薬科大学病院薬剤部 部長	東北医科薬科大学薬学部 臨床薬剤学教室 教授
畑中 貞雄	東北医科薬科大学病院臨床研究支援センター センター長	
柄窪 克行	(公財)仙台市医療センター 仙台オープン病院薬剤部 副部長	
新沼 佑美	(一財)広南会 広南病院薬剤部	
村井 ユリ子	東北大学大学院薬学研究科 准教授	東北大学病院薬剤部 副薬剤部長
小原 拓	東北大学病院薬剤部	

平成 28 年度日本医薬品情報学会 課題研究班

研究テーマ：医薬品情報（DI）担当者の研究教育能力を高める研修プログラムの開発

連絡先：〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷 5 丁目 22-1 仙台オープン病院薬剤部内（橋本貴尚宛）

電話：022-252-1111

E-mail: pharm.hashimoto@gmail.com